

平成三十年度 愛媛県立弓削高等学校 第一学期始業式式辞

皆さん、おはようございます。暖かな春の陽気に包まれて、生命が躍動する新しい季節が始まりました。春は別れと出会いの季節です。三月に卒業生や離任される先生とのお別れがあったと思うと、もう四月には新しい先生と新入生との出会いがあります。平成三十年度の第一学期が始まりました。

平成三十年度は、弓削高校にとって節目の一年となると思います。今年度弓削高校は、創立七十周年を迎えました。記念テーマは、「いざ漕ぎ出さん遙かなる未来へ ～七十年の絆を胸に～」と決まり、ロゴマークも出来上がりました。記念イベントとしては、昨年同様、運動会、文化祭を実施することに加え、五月三日には空中写真撮影、十一月三日には、記念式を行う予定です。記念式では、本校卒業生の料理の鉄人、岡山湯原温泉「八景」の料理長正原誠也 さんを講師に迎え、講演会を行う予定です。また、弓削島在住の世界的キーボード奏者デイブ・シンクレアさんを迎え、芸術鑑賞会を予定しています。芸術鑑賞会では、シンクレアさんの演奏で、皆さんに合唱もしてもらう予定です。本校は、全校生徒七五名と少しずつ人数が増えてきていますが、少人数は変わらないことですので、行事を成功させるためには、一人一役の意識が必要となります。一人一人が主体性を持って、自分が主人公のつもりで積極的に学校行事に参加してほしいと思います。

さて、本校の校訓は、「勉学」、「敬愛」、「創造」の三つの言葉であります。自分を見つめ、自らを律する「勉学」、他人を認め、尊重し、和を重んじる「敬愛」、未来への希望と自己を高める「創造」。弓削高校の教育方針である「徳・知・体の調和のとれた、人間性豊かで、心身ともにたくましい人間の育成」にぴたりと当てはまる言葉だと思います。また、昨年度末から私が何度か口にした校歌に歌われている三つの心「清き心・高き心・広き心」にも通じると思います。校訓をしっかりと胸に刻み、毎日の学校生活に努め励んでほしいと思います。

新しい年度を迎え、新しい挑戦を始める皆さんに、私から去年もこの日に話した、学校生活に必要な大切な三つの心を贈りたいと思います。校歌の心ではありません。皆さん覚えていますか。一つ目は「学び合う心」です。正解のない問いに対して、みんなで協力して、みんなが納得できる答えを見つけ出すような主体的、対話的で深い学びに取り組んでください。友人とともに学び合って新しい時代にふさわしい学力を身につけてほしいと思います。

二つ目は「支え合う心」です。人は一人では生きてはいけません。「和をもって貴しとなす」という互いを認め合い、互いを尊重する力が必要となるのです。「人それぞれに花あり」という言葉があります。人それぞれの花を認め、誰もが花を咲かせられるように支え合う集団であってほしいと思います。大きくなくてもいい、自分だけの美しい花を高校時代にたくさん咲かせてください。

三つ目は「高めあう心」です。「昨日歩いたこの道、今日歩くこの道、明日歩

くだらうこの道。同じだけど違っている。そういうことに気づく人になりたい」という言葉があります。私はこの言葉を、昨日よりは今日、今日よりは明日、自分自身が少しだけ高いところに進んでいよう、そうすれば違った視点で物事を見ることができる。仲間とともに、先生とともに夢を語り合い、目標を定め、一生懸命努力して、毎日、一步階段を登るような高校生活を送ってください。

新学期です。「学び合う心」「支え合う心」「高め合う心」という三つの心と「勉強・敬愛・創造」という三つの校訓を忘れずに、新しい目標を立て、いろいろなことに挑戦して、自らの力で大きく成長することを期待します。